

令和5年度 学校評価 中間報告

教育活動

石川県立医王特別支援学校

重点目標	具体的取組	主担当	実現状況の達成度判断基準	集計結果	判定基準	分析（結果と課題及び改善策等）
(1) 授業実践力の向上	教科の見方・考え方の視点を意識した授業に取り組む。	教務課	各教科等を合わせた指導において、教科的な見方・考え方で授業の内容を話し合い、教科の視点で児童生徒の変容を捉え、評価することができるようになってきたと考える教員の割合が A：80%以上 B：70%以上 C：60%以上 D：60%未満	回答数：11名 できた：2名 ややできた：7名 あまりできなかった：2名 できた・ややできた：82%	C、Dの場合は工夫改善を図る。	結果：A 結果と課題：今年度より各教科等を合わせた指導において年間指導計画と個別の指導計画に各教科の視点を意識して目標を設定し、教科名を記載した。すべての教科の目標を設定することや評価に関して難しさがあるという課題が出てきている。 改善策：ほぼ全員が、教科の目標を意識して授業を行っているが、教科的な見方・考え方という視点については、まだ共通理解して実践を行えていない。校内研究会や教科指導等研究会の中で授業検討を行いながら、教科的な見方・考え方を意識した授業内容や評価を話し合い、児童生徒の変容を捉えたり、評価したりできるようにしていきたい。
(2) 安心安全な学校づくり	コロナ対応を含めた学校行事の柔軟な企画・運営	病棟訪問教育	コロナ禍等を含めたこれまでの経過を踏まえ、学校行事や学部行事について、病院と連携し、方法・内容について検討・企画し、安心安全に配慮して実施できたと感じた教員の割合が A：80%以上 B：70%以上 C：60%以上 D：60%未満	回答数13名 できた：7名 ややできた：6名 できた・ややできた：100%	C、Dの場合は工夫改善を図る。	結果：A 結果と課題：教員の異動により新任者が増えた。新任者とともに、行事の企画・運営方法・内容をより丁寧に確認しながら準備を進めてきた。病院との打ち合わせ・連携等に関して今までに経験がない内容もあったが、回数を重ねることで理解し、安心安全に配慮した行事運営ができたと回答した教員が半数を超えた。 改善策等：ややできたと回答する教員も多いので、今後も丁寧に準備を行い、複数の教員で確認しながら、病院の状況を踏まえた柔軟な行事運営を継続していく必要がある。
	安全防災対策の充実	指導課	学校の安全防災対策等の課題や課題解決に向けた実践を知ることによって満足できたと感じる保護者・児童生徒の割合が A：80%以上 B：70%以上 C：60%以上 D：60%未満	回答数12名 満足している：9名 やや満足している：3名 できた・やや満足：100%	C、Dの場合は工夫改善を図る。	結果：A 結果と課題：近年の自然災害等の増加、甚大化に対応すべく、学校の安全防災対策について消防署や病院とも連携している。その結果、対応に満足しているとの回答が多かった。保護者には訓練の内容、対策状況等をホームページ、懇談等でお知らせしている。また児童生徒には自分でできる行動の確認を含め、丁寧な指導を行っている。 改善策等：危機的状況や自然災害は予告なしにやってくるため、さまざまな状況を想定した訓練や対策、また未然防止に力を入れていく必要がある。今後、病院と学校で定期的に危機管理マニュアルの内容の確認等を行っていく。
(3) 専門性の向上とセンター的機能の充実	病種理解のための研鑽	教務課	病種理解の研修会や事例検討会、自主的な研修会等への参加を通して、自らの専門性が向上したと感じた教職員の割合が A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満	回答数13名 できた：4名 ややできた：8名 あまりできなかった：1名 できた・ややできた：92%	C、Dの場合は工夫改善を図る。	結果：B 結果と課題：前期は重度重複障害の研修会を行ったり、全体の2/3の8名の児童生徒の事例検討を行ったりした。病種理解の研修の内容に関しては、アンケートではほとんどの職員がとても参考になったと回答した。また、自主的な研修に積極的に参加している教員も増えている。 改善策等：10月以降には、医王病院の心理士による心のケア研修会が企画されている。また、来年度に向けて事例検討会を行う。自主的な研修に関しても、チラシの回覧や掲示板の活用を通して周知していきたい。
	教育機関・他機関との連携	コーディネーター、専門相談員	年2回の情報交換会や継続的な相談を実施する中で、児童生徒への対応や指導に活かすことができた特別支援学級等の担当者の割合が A：80%以上 B：70%以上 C：60%以上 D：60%未満	回答依頼12校 できた：8校 今後活かす：3校 未回答：1校 できた：72%	C、Dの場合は工夫改善を図る。	結果：B 結果と課題：県内の病弱特別支援学級担当者に6月までに状況確認の連絡等を行い、そのやりとりの中で細かな相談等にも対応してきた。8月末に情報交換会及びアンケートを行い、12校中8校から指導に活かすことができたとの回答を得た。昨年度からの相談連携の成果と言える。 改善策等：病弱特別支援学級担当者が相談しやすい体制づくりについて、各学校の校内体制の整備や外部機関との連携が挙げられる。オンラインも含めた対面での相談により、専門相談員を身近に感じてもらえる工夫をしていく。
(4) 業務の効率化	効率的校務処理の推進	教頭	業務内容の共通理解やICT機器を活用しながら業務内容や手順等の見直しを図り、効率的に校務処理を行うことができたとする教員の割合が A：80%以上 B：70%以上 C：60%以上 D：60%未満	回答数13名 できた：1名 ややできた：10名 あまりできなかった：2名 できた・ややできた：85%	C、Dの場合は工夫改善を図る。	結果：A 結果と課題：昨年度の課題を受けて、各課の業務の見直しや各月の業務の平準化等を図りながら、ICT機器の活用を含めてアンケート集約等効率よく進められている。今年度は教員の異動により新任者が増えた（約1/3）ので新しい業務に取り組む教員も多い。病院との連携を含めて病棟訪問教育としての業務や各課の校務分掌を覚えた上で、今後の効率的な校務処理に向けた手順書等の作成・見直しを行うことが必要である。 改善策等：主要な業務を徐々に新任者に移行しながら教員間の業務の平準化に努める。また、各課の運営や各病棟に関する情報共有を効率よく進め、課題等があれば必要に応じて全体で検討する。